令和４年度
スクール・エンパワーメント推進事業

テーマ：必要な情報を読みとる力の育成

学校図書館を充実・活用するためのモデル校
茨木立葦原小学校

つけたい力

必要な情報を読みとる力
必要な本を選ぶ力

取組みの概要・ポイント

言語能力・情報活用能力の育成に向けた基礎づくり
→　「本を読みたい」活用したいと実感する授業づくり
→　「本を身近に感じる」・「楽しく本に出合う」・「便利さを知る」場づくり

具体的な取組みの内容①　教科横断的な探究的学習

◆図書館資料を教科横断的に活用

・子ども新聞を読んで交流（国・社）4・6年
・すくすくウォッチ「わくわく問題」にチャレンジ（国・総・社）4・5年
・算額をつくろう（算・社）5年
・もちもちの木をつくろう（国・図）３年

各教科それぞれの資質能力を育成する計画で学校図書館活用を位置付けることで、教科横断的な資質能力の育成に自然とつながっていった。

◆ゴールを明確に必然的に本が読みたくなる課題の設定

・虫を調べて虫になろう（国・生・図工）2年

単元のゴール　調べた虫に変身して、その虫になりきっての紹介する

ぼくはハエだよ。ぼくは食べ物の上にとまるだけで、どんな味がわかるんだよ。だから足をこすって次の食べ物のために準備しているんだよ。

茨木市学校図書館教育の充実

・学校へようこそ～廊下をのりものワールドに～（図工・総）1年と6年の異学年交流として

単元のゴール　他校の先生を迎えるために、学校の壁面を楽しく飾る

乗り物に興味をもてるように1年生が楽しいと思える本を探して読み聞かせをするよ。その本で楽しかった場面を、マスキングテープで壁に再現してみるよ。

具体的な取組みの内容②　本に出合う場所や機会をたくさんつくる

◆どこでも学校図書館

「G（ぐっとみじかで）T（つかいやすい）M（もっと読みたくなる）学校図書室にむけて」を合言葉に

・廊下の掲示板における本の紹介
・教科書に出てくる本、学習に関連する本をその学年の教室前の廊下に配置
・保健室、理科室、算数教室などにも関連する本を配置

学校図書館の資料は「図書室」だけにあるのではなく、必要なときに必要な場所にある資料として活用するという概念を大切にする。

◆物流を活用（茨木市内の図書館資料の貸し出し）

・市立図書館から長期貸し出しの活用
・市内の小中学校間の貸し出しにより調べ学習で１人１冊資料を準備

賃借本の仕分け
↓
業者による運搬
↓
受入・データベース化
↓
子どもたちのもとへ

取組みを通しての子どもの変容

・学習の中で調べたことについて、関連する本を休み時間に自主的に借りる子どもが全体で増えた。（例　乗り物の本の月貸出冊数平均　学習前90冊→学習後150冊）
・学校図書館の休み時間の来館者数の増加。（1学期の貸出冊数　R3　6928冊→ 7671冊）
・友だちに本を薦める姿も学校図書館で多く見られるようになり、授業においても本の活用だけではなくICTとの併用場面が増えた。
・低学年のうちから本を活用した調べ学習を大切にすることで、子どもは本の有用さを実感し、学習で本を活用することが定着した。
・学校図書館の活用で学習者主体の授業づくりが進み、子どもたちの学習意欲が高まり、学力向上につながった。（市独自テスト無解答率　R3　60%→R4　9%）